

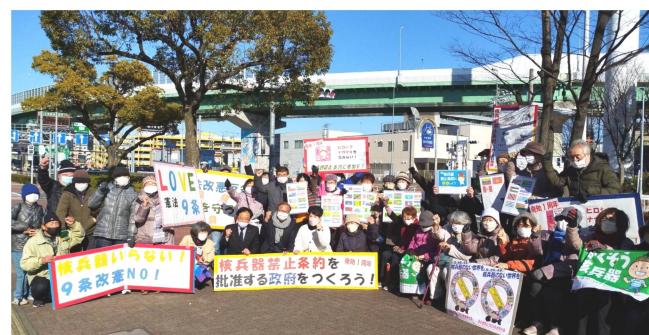
2022年



2月

平の根

発行 原水爆禁止愛知県協議会
発行人 大村義則
〒461-0004
名古屋市東区葵1-22-26
Tel(052)932-3219
Fax(052)931-2651
gensuikyo@lime.ocn.ne.jp
毎月1回 6日発行
月40円/年間480円



昨年の1月23日は核兵器禁止条約の批准国が50か国に達し、国際条約として「発効」された記念すべき日です。その発効の1周年を記念し、日本原水協は23日を中心にして、多くの地域で行動に取り組もうと呼びかけました。愛知県内各地でもスタンディングや署名・宣伝行動が行われました。

22日には、名古屋市港区のららぽーと前で港区平和委員会と県原水協が共同で「核兵器禁止条約発効1周年・新春アピール in みなと」を行い、50人以上の参加者で条約発効1周年を祝いながら市民にアピールをしました。ららぽーと前の歩道で、「核兵器禁止条約を批准する日本政府をつくろう！」「核兵器いらない・9条改憲NO！」と書かれたプラカードや禁止条約に批准した国々の国旗が並んだプラカードなど、港区平和委員会お手製のプラカードを掲げてスタンディングをしながら、通行人にチラシを配つたり署名をお願いしたりと、とても賑やかな行動になりました。

また、港区平和委員会の山口さんと共産党のもとむら伸子衆議院議員、井上さとし参議院議員、大村県原水協



事務局長の3人の被爆2世がマイクを通して買い物に来ている人々に訴えかけました。山口さんは、「批准国の国旗を並べたプラカードには1力所空いているところがある。そこに1日でも早く日本国旗が入ってほしい」と訴え、大村事務局長は3月に開かれる禁止条約締約国会議にNATOに加盟していくドイツがオブザーバー参加を表明したことやヨーロッパ各国で核兵器に頼らない安全保障を模索する動きがあることなど、核兵器廃絶へと世界の情勢は動いていることを語り、「唯一の戦争被爆国」日本こそ参加するべきだ」と訴えました。もとむら議員は「被爆者の運動で禁止条約ができた。条約に参加する政府をつくるためにこ

これからも頑張っていきたい」と決意を述べられ、井上議員は昨年亡くなられた被爆者の坪井直さんは「ネバーギブアップ」という言葉をよく口にしていたと紹介され、「私もネバー

これからも頑張っていきたい」と決意を述べられ、井上議員は昨年亡くなられた被爆者の坪井直さんは「ネバーギブアップ」という言葉をよく口にしていたと紹介され、「私もネバー

竹元さんの思いを紹介します。

れからも頑張つていきたい」と決意を述べられ、井上議員は昨年亡くなられた被爆者の坪井直さんは「ネバーギブアップ」という言葉をよく口にしていたと紹介され、「私もネバー

ギブアップの精神でこれからも核廃絶を訴えていきたい」と力強く語られました。

また、名古屋市北区・大曾根でも署名・宣伝行動が行われ、28筆が集まりました。

同時に署名袋（核兵器禁止条約の批准を求める署名と改憲反対）を持って、出会う人にお願いしています。「日本はアメリカの子分だから、核兵器は必要だと思う」「私よくわかりません」と言って署名してくれない人もいます。でも「政府は被爆国なのにになにしてるんだ」「体に気をつけて、頑張って」と書いてくれる人も有り励まされます。

核兵器のない世界を目指して、今日も頑張ります。

瀬戸反核ゼンタ一
竹元稔郎

元日から署名・宣伝行動

2022年1月1日、毎年恒例元旦署名・宣言行動を熱田神宮前で行いました。新型コロナの新規感染者数が少なくなっていった時期とはいえ、コロナ前の人出と比べるとだいぶ少ない印象でした。

原水協はじめ平和委員会、新婦人、安保破棄、被爆者支援ネットなどの反核・平和団体から21人の参加があり、11時から12時までの1時間で署名が69筆、募金3,650円が集まりました。



1年の運動の力に 反核・平和 新春学習会

手編みのマフラーに『うれしい』 被爆者を励ますつどい



若い人たちと運動をするためには、「」と題し、行わされた講演の中で高齢者の平和的解決、原子兵器・大量破壊兵器の一掃を決意した国連憲章と第1回国連決議は、多くの犠牲者を出した世界大戦の反省と人間の権利を尊重したもので、核なき世界の実現は人類的合意だと話されました。

核保有国のスタンスを表すものとして、1月3日に発表されたP5（米、英、仏、露、中国）の共同声明を紹介され、その中で「核戦争に勝者はおらず、決して戦つてはならない」と言っているが、「もし核兵器を持つなら防衛、侵略・戦争の防止として」と言い、核抑止論は保持している上、「核を使わない」とも

一通り話が終ったところで、支援者から被爆者の皆さんに手編みのマフラーがプレゼントされました。被爆者の皆さんは、色とりどりのマフラーがプレゼントながら選び、「あついかくて、とてもうれしく」と喜ばれました。



毎年、平和4団体（平和委員会・安保破棄実行委員会・非核の政府を求める会・原水協）が開催していた「反核・平和新春のつどい」は、年の初めに学習と交流をして1年間の活動の力にしよう、コロナ禍で人が集まり交流するのは難しいと

判断し、去年に引き続き「新春学習会」ということで学習会をメインに行われました。講師は、日本原水協代表理事の高草木さんとオンラインで結び、オンライン参加のハイブリットで行われました。

2021年12月18日、被爆者支援ネットワーク主催の「被爆者を励ますつどい」が伏見・保険医協会会議室で行われました。被爆者名、2・3世4名、支援者24名が集まり、3つのグループに分かれ、

被爆者から被爆体験や核廃絶への思いを聞いたり、支援者からなぜ被爆者支援の活動に参加するようになつたかなどの話をしたりして交流しました。原爆投下から77年経

3・1ビキニデー 重要なお知らせ

現地とオンライン両方での開催を予定していた2022年ビキニデーですが、オンラインのみの開催に変更されました。

オミクロン株による新型コロナ感染拡大で、開催県の静岡県を含む34都道府県に「まん防」が拡大されたことを踏まえての対応です。感染防止と参加者の命を守ることを最優先した判断です。

オンライン一本化により、3・1ビキニデー集会の企画は以下のように再編成を行います。（内容の詳細は日本原水協HPで）

【2月28日】

日本原水協全国集会を第1部、特別集会を2部とし、13:00~15:30の2時間半のオンライン企画とする。

参加費：一人1,000円、募金500円を予定

【3月1日】

被災68年・2022年3・1ビキニデー集会は当初通り13:00~15:30の2時間半のオンライン企画で開催する。

参加費：一人1,000円、募金500円を予定

墓前祭 10:30より11:00 規模縮小して現地のみで開催
墓参行進はよびかけない。



ビキニ被災から68年となる今年のビキニデーは、核兵器禁止条約締約国会議長のクメント大使もオンラインで参加します。学習パンフレットを積極的に活用し、ビキニデー参加を広げましょう。
【3・1ビキニデー学習パンフレット】B5版(16ページ)4色刷
価格220円(送料実費)
※注文は県原水協事務局まで

また、文化企画として手品の披露もありました。金本弘愛友会理事長は、「（被爆者が高齢化する中）支援者なくして被爆者運動は進まない。これからも一緒に運動

進めましょう」とあります。末のとても寒い日でしたが、被爆者、支援者と共に直接会う機会が少なくなってしまった今、とても貴重な時間となりました。